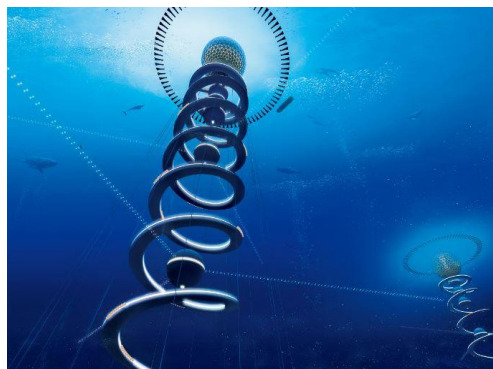


## アントレプレナーの生き方 (9) ～清水建設 その2 持続可能な未来づくりへの挑戦～

子どもたちに誇れる 2030 へ、そしてその先へ。シミズグループ(清水建設)では、SHIMZ VISION 2030 として長期ビジョンを掲げながら、建設事業の枠組みを超えて、世界に新しい価値をもたらすための取組を進めています。今回は、そのいくつかを紹介していきます。

### ◎深海未来都市構想 OCEAN SPIRAL

深海の本格的な利用により、かつての陸上型の効率至上主義開発とは一線を画し、地球における「人類社会の持続性」の飛躍的向上を目指す取組。宇宙船のように海中に浮かぶ直径 500m の球体・BLUE GARDEN をベースキャンプとして、人や物資の輸送、発電、海水の淡水化等を担う INFRA SPIRAL、海底資源の開発や CO<sub>2</sub>の貯蔵、再利用を行う EARTH FACTORY まで、大気・海面・深海・海底を垂直に統合。深海には、「食糧」「エネルギー」「水」「CO<sub>2</sub>」「資源」といった現代社会が抱える 5 つの課題を解決するポテンシャルがあるため、深海力による地球再生を目指します。



深海未来都市構想  
OCEAN SPECIAL  
【提供】清水建設株式会社

### ◎環境アイランド GREEN FLOAT



環境アイランド  
GREEN FLOAT  
【提供】清水建設株式会社

太平洋上の赤道直下に浮かぶ「環境アイランド」は、まるで水上に広がる睡蓮のように成長する都市です。最も太陽の恵みが多く、最も台風の影響が少ないという、赤道直下の持つ地域ポテンシャルに注目しました。CO<sub>2</sub>ゼロを超えたカーボンマイナスと再生可能エネルギー100%を実現し、食糧の自給自足を可能にする「植物質な都市」の発想。地震や津波、さらには台風やハリケーンの影響も無く、海面上昇で沈みゆく国を救う「海上の都市」の発想。この2つのイノベーションを掛け合わせることで、新たな環境都市モデルの構築に挑みます。

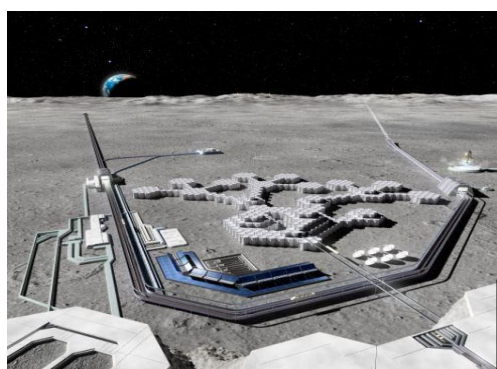
### ◎月太陽発電 LUNA RING

月赤道上にリングのように太陽電池を敷き詰めて発電し、常に地球を向く側(地球指向面)から地球に向けてマイクロ波レーザー光に変換してエネルギーを伝送します。月面での大規模太陽光発電は、天候の影響も受けることなく24時間連続発電が可能のため、地球上のあらゆる地域でエネルギーとして利用できて、全消費エネルギーを代替することができます。クリーンエネルギー社会の実現を目指します。



月太陽発電 LUNA RING  
【提供】清水建設株式会社

### ◎月面基地



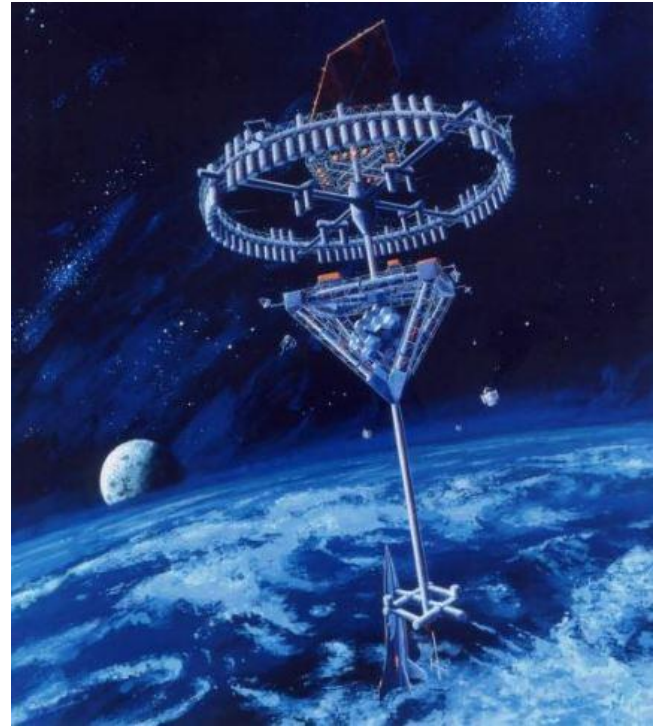
月面拠点は、将来の宇宙開発計画における重要なインフラストラクチャーの1つと考えられています。その建設には地上で培われた建設技術の多くが応用されると考えられます。シミズは、永年にわたって蓄積した建設に関する総合技術力を月という新たなフロンティアで活かすべく、構造、材料、施工技術、施設配置計画、居住環境など多様な観点からの研究を積極的に進めています。

月面基地  
【提供】清水建設株式会社

### ◎宇宙ホテル

これまでは宇宙飛行士しか行けなかった宇宙ですが、近年では民間人でも体験できるようにするための活動も進められ、いよいよ宇宙旅行が産業として始まろうとしています。宇宙ホテルは、エネルギー・サプライ、客室モジュール、パブリック・エリア、プラットフォームの4つの部分で構成されている全長240mの大型宇宙構造物です。低軌道に浮かぶ宇宙ホテルでは、訓練を受けていない一般の人々が宇宙旅行を楽しむことができます。

宇宙旅行の最大の目的は「地球を観ること」です。旅行者は透明なブルーに輝く地球、薄い大気のベール、美しい雲、地球の夜明けを見ることができます。また、天体観測や無重力空間でのスポーツや食事、地球との交信などを過ごします。



宇宙ホテル  
【提供】 清水建設株式会社

### ◎温故創新の森 NOVARE(ノヴァーレ)

東京都江東区内に開設されたイノベーションと人財育成の拠点「温故創新の森 NOVARE(ノヴァーレ)」では、歴史資料展示施設「NOVARE Archives(清水建設歴史資料館)」が2024年に完成し、移築工事を終えた「旧渋沢邸」と合わせて、2024年4月から関係者に公開されました。

館内では、初代清水喜助が1804(文化元)年に神田鍛冶町で創業した時代から受け継いできたさまざまな歴史的資料や清水建設が手掛けた建築作品の模型等が展示されています。「旧渋沢邸」は、明治期に当社の相談役を務めた渋沢栄一と子、孫、曾孫が四代にわたり暮らした住宅です。二代清水喜助が設計施工を手掛け、1878(明治11)年に完成した木造建築を母屋とし、その後、洋館等の増築を経て現在の姿に至っています。当初の建設地は深川福住町(現在の江東区永代)でしたが、2度の移築を経て1991年から青森県上北郡六戸町で保存されていた建物を清水建設が譲り受け、江東区潮見に再移築しました。2024年1月には「旧渋沢家住宅」として、江東区指定有形文化財に指定されています。



旧渋沢邸  
【提供】 清水建設株式会社

「道理にかなった企業活動によって社会に貢献し、結果として適正な利潤をいただき社業を発展させる」。清水建設は、1887(明治20)年に相談役として迎えた渋沢栄一翁の教えである「論語と算盤」を社是として掲げながら、持続可能な社会のため、世界の未来を見据えています。